

連載⑧ 地域密着を進める
女子大学の人づくり
 宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長 宮原 育子

2016年4月、創立130周年を迎える宮城学院女子大学が戦後最大の改革として計画した「ヒラケ〜ミヤガク」が動きだしました。現代ビジネス学部は、その一環として新たにヒラカれた学部です。1学部1学科体制で、ビジネスに必要な幅広い知識と、ビジネスの現場から経済活動や企業の仕組みを学び、総合的

実践力を身につけたビジネス・パーソンとしての女性を育てることを目標にしています。1、2年生では、ビジネスの基礎をしっかり学び、2年生から4年生までの間にビジネス学の応用と「観光」「国際」「地域」という3つのビジネス分野に学びを展開させていきます。

1期生95人の75%は宮城県内の普通高校や商業高校からの進学ですが、残りは東北七県の高校出身者が占められています。県外からの学生は、初めての一人暮らしが心細いようでしたが、日がたつにつれて友人もでき、大学で新しくビジネスに関する知識を学ぶのが楽しい、と笑顔を見せてくれます。入学の動機は県内外を問わず「観光を学びたいから」が最も多く、入学後はマーケティングや会計学の分野にも興味を持ち始めています。

学生たちは活動意欲が高く、4月下旬には、学生たちの自主活動組織「現代ビジネス学会」を立ち上げて、教員とともに学部での学習活動と懇親の活性化を進めています。また、オープンキャンパスでの学生生活プレゼンテーションを引き受ける学生や、

大学内の学生活動資金に応募して、地域観光の研究企画を始める学生など、フットワークの良さには目を見張るものがあります。こうした学生たちの意欲と期待に応えるべく、学部でも、講義の他に学科学の学外研修を用意しています。

6月には一般社団法人日本ショッピングセンター協会のご協力で仙台市内のショッピングセンターの見学を実施しました。学生たちは現場で、



ショッピングセンターで説明を受ける学生たち

経済活動や企業の仕組み、知識を学ぶ

スタッフの方から施設の概要と施設管理、マーケティングや販売促進などの実際の説明を受けて、自分たちの生活に身近なショッピングセンターをビジネスの視点から考えることに強い興味を持ったようです。夏休み中には、学科の実習として東京へ出かけ、日本銀行や東京証券取引所、有名デパート、商店街、駅ビルなどの見学を実施する予定です。

現代ビジネス学部は、宮城

学院女子大学が長い歴史の中で進めてきた女子教育の志を現代社会の中で体現していく学部といえます。特に東日本大震災後の東北をはじめ日本の社会の大きな変化は多くの課題を生み出しており、同時に女性が活躍できる分野も飛躍的に広がり多様化しています。こうした社会背景を踏まえながら、現代ビジネス学部では、新しい時代に合

った女性人材育成を目指していきます。

現代ビジネス学部が実践的教育を進める上で、強みと考えているのは、長年大学が築いてきた地域との多様な関わりと、多くの卒業生（OG）の存在です。OGは、国機関や地方自治体からメディア、農業や食産業、国際支援や観光関連産業、教育、一般企業に至るまで、様々な分野で活躍しています。現代ビジネス学部では、今後、OGや地域で活躍するビジネス・ウーマンのネットワークづくりを進めていきます。

学生たちは後期から、ビジネスの現場を訪問したり、プロジェクトを体験する実習に入ることで、学部としても今後さらに、東北各地、宮城県、仙台市などの自治体や機関、企業等の皆さんのご協力をいただいたながら、学生たちの実践的な学びのフィールドを充実させていきます。



宮原育子（みやはら いくこ）
 昭和29年生まれ。東京都出身。昭和61年榊日本旅行退職後、平成9年東京大学大学院理学専攻博士課程修了。宮城大学事業構想学部教授を経て、平成28年4月現職に就任。